



御前崎での暮らしは不便だったり、魅力がなかったりするの
かUターンやIターンをして御前崎市で暮らしている人たちから
若者たちへの「メッセージ」

好きなことをして暮らすのは 首都圏じゃなくてもできる

清水食堂を経営する清水康年さんは、池新田地区出身です。実家が美容院を営んでおり、いずれは地元に戻ろうと思いつきながら東京の美容師専門学校に入学しました。しかし、勉強をするなかで「美容師の仕事は自分に合わない」と思い、群馬県で農業に従事したり、東京都でカフェの店員として働いたりしていました。

もともと実家に戻ることを考えていた清水さんは、さまざまなタイミングが重なり2011年にUターンを決意。その後、目標としていた飲食店の経営を実現させました。

御前崎に戻って来て、あらためて地元の暮らしやすさや環境の良さを実感したという清水さん。御前崎の

魅力を「こんなに自然が豊かで人の温かさを感じる場所はない。この何もないところもいいんですよ」と笑顔で外を見渡しました。

さらに「一度地元から離れてみて、首都圏に出なくても好きなことをして暮らすことができる気がしてきました。そう考えると都会へ出てみることもいいかも、できませんね。若い人たちは、このまちでやりたいことや頭に思いついたことをどんどんやってみたらいいと思います。御前崎には、それをできる環境があります」と提言します。

自身もやりたいことを実践している途中だという清水さん。今後は「自分が育てた食材を使った料理を提供したい」と話します。

